インフラメンテナンス総合委員会　2026/10/07

「インフラマネジメント検討部会」資料　（部会長　佐々木葉）

(1)部会メンバーのようす

(2)部会の活動イメージ
　9/14拡大幹事会・9/30第0回MTGを踏まえた現時点の案

今後の部会の予定

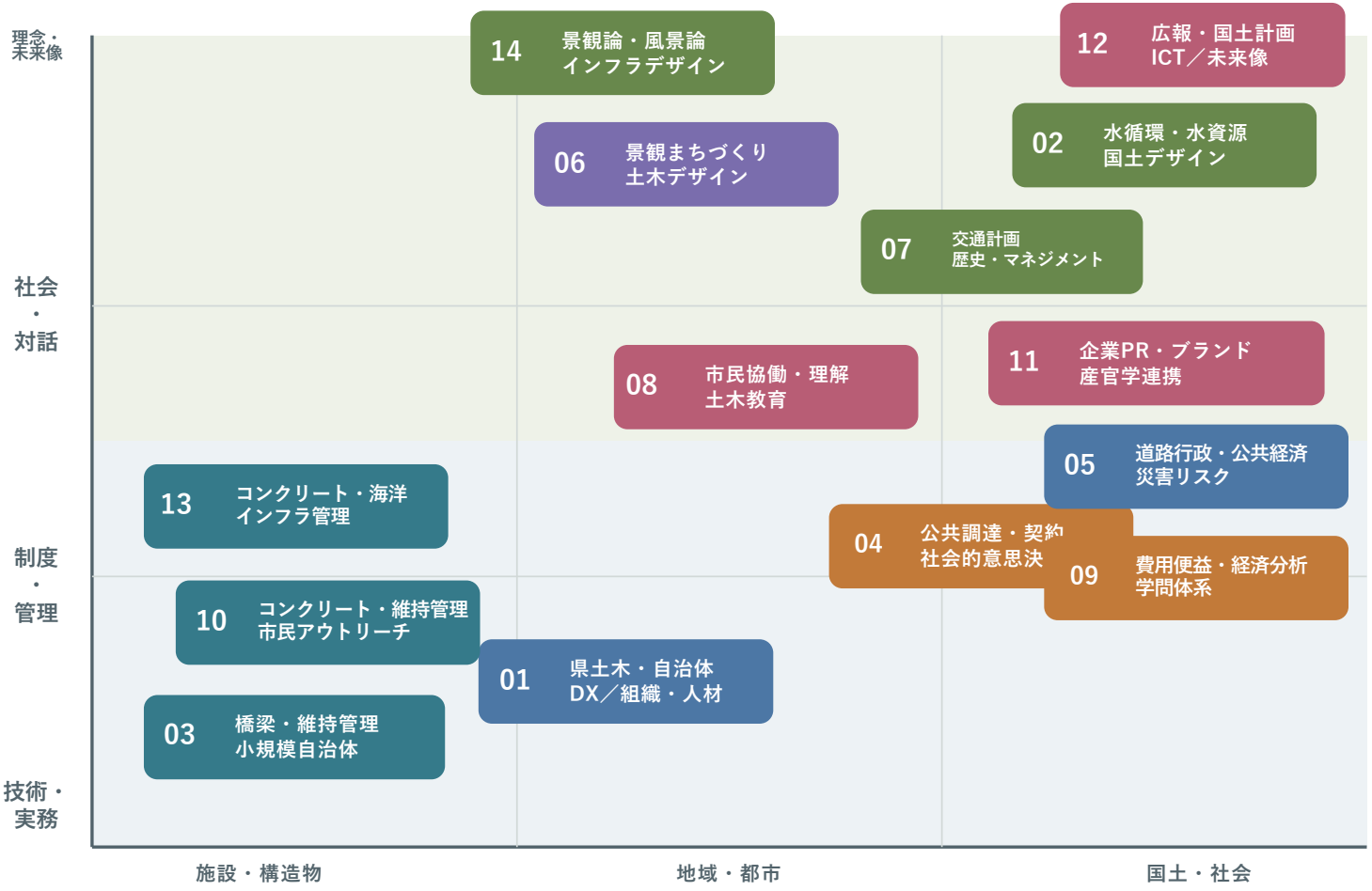
第1回部会　10/9　11:00-12:00
第2回部会　11月
第3回部会　1月

その他適宜グループMTG

部会メンバーアンケートからAIまとめ

(1)メンバー専門領域マップ

対象スケール × アプローチ　|　Q3を主軸に、Q4の関心で配置を補正



主領域（色）

- 施設・技術・維持管理
- 計画・国土・デザイン
- 経済・制度・マネジメント
- 行政・実装・組織
- 社会・市民・コミュニケーション
- 理念・歴史・未来像

この構成から見えること

構造物の維持管理から、行政・制度、市民との関係、国土の将来像までを一つの場で扱える。

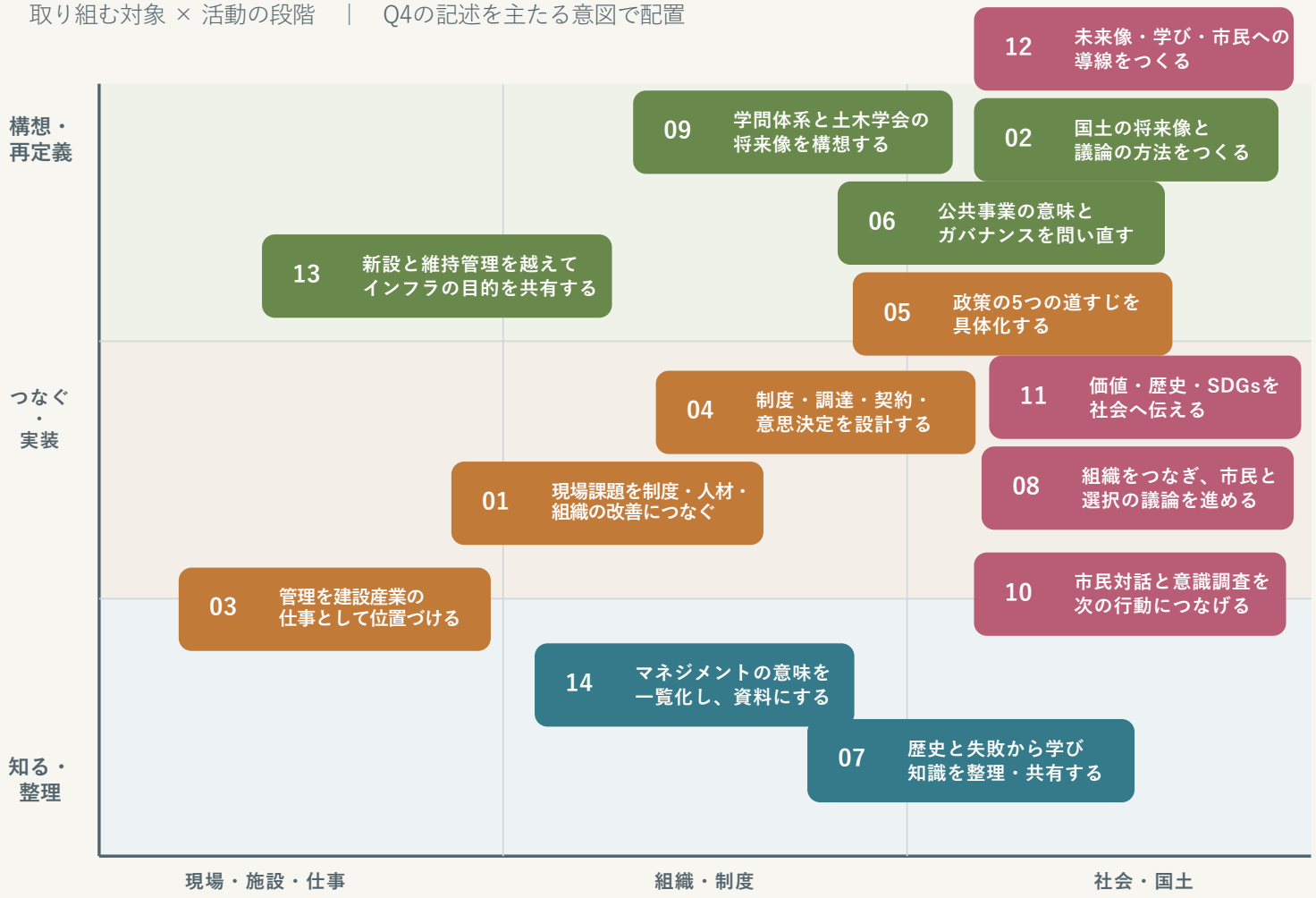
特に「地域・都市」を接点に、技術と社会をつなぐ人材が厚い。

※番号はアンケート回答順

部会メンバーアンケートからAIまとめ

(1)部会でやりたいことマップ

取り組む対象 × 活動の段階　｜　Q4の記述を主たる意図で配置



主たる取り組み（色）

- 調査・整理・可視化
- 制度設計・実装
- 社会との関係・発信
- 理念・将来像の再構成

全体として見える方向

現場の実態把握や歴史の整理を起点に、制度・仕事の再設計、市民との対話を経て、インフラと土木学会の将来像までを扱おうとしている。

実装志向と理念志向が併存し、その間を「共有できる資料」と「対話」がつなぐ。

※番号は前図と同じ回答順

部会メンバーアンケートから佐々木まとめ

インフラ本質論

- インフラの究極の目的を常に意識
- 現在のあり方を所与としない，本質的な変革
- 「これからのインフラを社会としてどう考え、選択していくか」
- 未来のための正しい「投資」としての公共事業の復権

ヴィジョンを描く

- 将来の国土のビジョンの話し合い方のあり方
- 積みあげてきた歴史を踏まえての未来志向・フューチャーデザイン
- 一歩二歩先を見た理念・ビジョンを示して

学際的学問体系

異分野との接続

- 外部の方に話を伺う機会
- 職域を超えた繋がり
- 専門分野を問わず、将来の社会とインフラのあり方についての議論が学会内にもっと満ちて

既存概念のリセット

- 安易な「土木の魅力」をNGワード化
- 新設VS維持管理という構図を打破

歴史に学ぶ

実務との接続

- これまで「技術」とは捉えられてこなかった制度・発注・人材・組織等の課題についても、「技術」として捉え、解決していく
- 建設業界の具体的な仕事の一つとしてどう位置付けられるか
- 制度設計，事業執行・契約方式の検討，社会的意思決定の仕組み
- 国交省の動きに学会の立場からアドバイス

対象の拡大

- これまで「技術」とは捉えられてこなかった制度・発注・人材・組織等の課題についても、「技術」として捉え、解決していく

学会内で・学会内へ／学会外へ

拡大幹事会＋0回MTGを踏まえた

(2)インフラマネジメント検討部会で取り組むべきこと（案）

① インフラメンテナンス総合委員会をインフラマネジメント総合委員会に名称変更、コンセプト変更していく際の理由、目的、変更の骨子についての考え方を提示する。

→ 今年度中の名称変更に間に合うタイミングで

② 土木学会において、インフラマネジメントを総合的に考えていく際のフレーム案の提示

→　①と並行して議論しつつ、2027年度に提示

③ ①および②を考える際に視野をひろげ、これまでの枠組みにとらわれない議論をするためのインプットとなる情報共有＆発信

→　部会メンバーやゲストによる話題提供・インフラ自分ごとラジオでの発信。できる範囲で随時

土木学会において、インフラマネジメントを総合的に考えていく際のフレーム案イメージ

